

第 15 回高知県立病院経営健全化推進委員会議事要旨

- 1 日 時 令和 3 年 2 月 15 日（月） 18:30～20:30
- 2 場 所 高知共済会館 3 階 藤
- 3 出席者 委 員 : 宇田委員長、臼井委員、奥谷委員、執印委員、
野並委員、廣光委員、藤原委員
公営企業局 : 橋口局長、笹岡次長
県立病院課 : 近藤課長、松本企画監、岡崎課長補佐
あき総合病院 : 前田院長、坂本経営事業部長、平瀬看護部長
幡多けんみん病院 : 矢部院長、伊藤経営事業部長
- 4 議 事 以下のとおり

(1) 委員長の選任について

高知県立病院経営健全化推進委員会設置要綱の改定（委員の任期等の改定）に伴い、委員長の選任を行った結果、宇田委員が委員長に選任された。

(2) 令和元年度決算及び令和 2 年度の経営状況について

県立病院課、あき総合病院、幡多けんみん病院から資料 1、資料 1 - 2 等により説明した後、意見交換を行った。

[意見交換]

(委員)

- ・ コロナ禍での両病院の経営状況については、よくこのくらいの傷でおさまっているなという印象。両病院長の感染対策実施や指導等の賜物だと思う。

(委員)

- ・ 地域でコロナ感染者が出たという情報は、医療従事者よりも地域住民の方が早く知っており、受診を控える等の動きが出ている。ワクチン接種が進み、コロナと上手につき合えるようにならないと、この状況はしばらく続くのではないかと思われる。患者の受入等、県立病院と引き続き協力していきたい。

(委員)

- ・ 今回、感染管理認定看護師の果たす役割は大きかったと思うが、両病院において実際にどのような活動を行っているのか。

(あき総合病院)

- ・ 当院は同看護師は 1 名だが、福祉保健所との連絡を密に行い、環境整備や受入病棟の

体制の調整等、細かい業務まで関わってくれている。

(幡多けんみん病院)

- ・ 当院は同看護師が2名いるが、1名は福祉保健所や地域の医療機関との連絡やコロナ患者の入退院調整等を行い、もう1名は現場のスタッフとして、防護具の着脱やコロナ患者への実際の対応等をモデルとしてやってくれており、他のスタッフの安心につながっている。

(委員)

- ・ コロナ対応による看護師への負担はどうだったのか。離職等への影響は。

(あき総合病院)

- ・ 当院では受入体制の準備等、スムーズにできており、コロナ対応による負担で離職した者はいない。

(幡多けんみん病院)

- ・ 離職者はいないが、コロナ対応病棟に勤務していた看護師2名について、業務する上で不安との声を聴き、休暇や病棟異動の対応をとったケースがある。

(委員)

- ・ 令和元年度決算では、病院全体での経営収支黒字までもう一步というところまでできていた。第6期計画の最終年度である令和2年度については、コロナの影響を受け、収益や患者数の落ち込みはあったものの、徐々に回復の傾向を見せている。今年度の最終的な数値目標はあるのか。

(公営企業局長)

- ・ 今のところ、具体的な数値は持ち合わせていない。第6期計画の数値目標のとおり、今年度は収支トントンに持っていきかけたが、やむなしの状況。患者が戻ってきているのは両病院の努力が認められ、信頼されてのことだと思っているが、今後の課題等も含め、第7期計画の取組につなげていきたい。

(3) 第7期経営健全化計画の策定について

県立病院課から資料2、資料2-2により説明した後、意見交換を行った。

[意見交換]

(委員)

- ・ 両病院の診療単価は上がってきており、スタッフの雰囲気もいいと思う。県内の研修医や若手医師が両病院に派遣され、大学に帰ってきて、また派遣されるといった好循環を今後も継続していくために、病院の指導力を発揮してもらいたい。

(委員)

- ・ 今後はまず、コロナワクチン接種が進むことが重要。見通しが不透明な中ではあるが、県立病院や他の医療機関と協力しながら、地域の医療を守っていきたい。

(委員)

- ・ 県立病院の看護職の平均年齢は上がってきていると思われる。将来的な安定確保に向けた見通しは。

(公営企業局長)

- ・ 年齢的な偏りは若干見られるが、人数は絞っている訳ではなく、年度年度で必要な人数を募集している。応募が少なく、結果的に採用者が少ないといった状況もあるが、適宜対応していきたい。

(委員)

- ・ 医業収益に占める人件費の割合が高い状況となっているが、働き方改革や感染症対策といった取組に影響はないのか。

(公営企業局長)

- ・ 感染症対策については、国からの支援があり、経常収支の助けにはなる。併せて、オンライン診療等、より効率的な方法でのコスト削減を進めていかなければいけないと思っている。